

研究機関：広島大学

研究課題名	当院における膵癌手術症例の遺伝子発現の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学 准教授 相方 浩
研究期間	2020年8月3日(倫理委員会承認後)～2026年3月31日
対象者	2015年1月1日から2018年12月31日までの間に広島大学病院にて膵癌が疑われ手術を受けられた患者さん。
意義・目的	<p>膵癌は約80%が進行癌で発見され5年生存率7%と最も予後が悪い癌です。治療については手術、化学療法、放射線療法が行われていますが再発、転移も多いです。KRASをはじめとする様々な遺伝子異常が報告されていますが診断や治療への応用は研究段階です。今回我々は当院で膵癌を診断され手術を施行された症例の遺伝子の発現プロファイルを解析することで治療抵抗性、予後、病理学的な特徴に關与する遺伝子発現シグネチャーやドライバーとなる遺伝子発現異常について解析、検討を行うことにより、治療方針決定の道標となり得る遺伝子発現パターンを同定することができると期待されます。また、ドライバー遺伝子の同定は将来的な新規治療ターゲットの開発に繋がると期待されます。</p>
方法	<p>組織が病理診断科にて保管されていた症例の中から当院でのフォローアップを継続しており、腫瘍量が十分と考えられる症例を選択し、FFPE切片を作製します。FFPE切片から腫瘍部を切り出し、RNAを抽出後、次世代シーケンサーを用いたRNA seqにて遺伝子の発現量を解析します。</p> <p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は年齢、性別、血液検査(pAMY, LDH, N/L比, HbA1c, CEA, CA19-9, DUPAN-2, SPAN-1)、画像所見(CT, MRI)、病理所見、抗癌剤投与の有無です。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科 消化器・代謝内科学 准教授 相方 浩
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。この研究のために集めたデータは、将来この研究とは別の研究に利用させていただく可能性がありません。データの二次利用の際には、個人を特定できない形で改めて、倫理審査委員会で承認を受けてから使用します。</p> <p>研究に試料・情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5191 広島大学大学院 医系科学研究科消化器・代謝内科 職名 准教授 相方 浩、 大学院生 田村 陽介</p>